

編纂事業の進捗状況

寫田修

はじめに

百五十年史編纂事業の進捗状況報告の六回目である。今回は、二〇一五年一月から二〇一六年一〇月末までの状況を報告する。以下、編纂委員会、編纂専門委員会での議論と、二〇一六年度から設置された第1巻編集会議での議論を中心に説明していきたい。

一・二〇一五年度後期の状況

(一) 各委員会の概要

二〇一五年度後期(二〇一五年一月～二〇一六年三月)は、編纂委員会が一回、編纂専門委員会が三回行われた。以下、各回の概要(日程、議題等)を開催日順に示す。

○編纂専門委員会(臨時) 一月四日、一二時一〇分～一三時、99号館(STEP21)六階会議室にて開催。委員の出席者は五名。

・協議事項

1. 今後の編集事業の進め方の件

○編纂専門委員会(第三回) 一月一九日、一二時一〇分～一三時、99号館(STEP21)六階会議室にて開催。委員の出席者は五名(今回は議題の関係で、編纂委員会委員長も出席)。

・協議事項

1. 今後の編纂事業の進め方の件／2. 『早稲田大学百五十年史』編集・執筆の件／3. Web版資料集の件

・報告事項

1. 資料調査・収集状況の件／2. 法人会議資料目録化・デジタル化状況の件／3. Web版資料集の件／4. 大学関係者聞き取り調査の件／5. 「早稲田大学大学史セミナー」の件

○編纂委員会（第二回）二月一日、一二時一〇分～一三時、大隈会館N三〇五会議室にて開催。委員の出席者は一名。

・協議事項

1. 今後の編纂事業の進め方に関する件／2. 『早稲田大学百五十年史』編集・執筆に関する件／3. Web版資料集に関する件／4. 編纂専門委員の退任及び補充に関する件

・報告事項

1. 早稲田大学百五十年史編纂専門委員会の報告に関する件／2. 編集体制に関する件／3. 資料調査・収集状況に関する件／4. 法人会議資料目録化・デジタル化状況に関する件／5. Web版資料集に関する件／6. 大学関係者聞き取り調査に関する件／7. 「早稲田大学大学史セミナー」に関する件

○編纂専門委員会（第四回）二月二六日、一〇時三〇分～一二時、99号館（STEP21）六階会議室にて開催。委員の出席者は六名。

・協議事項

1. 今後の編纂事業の進め方の件／2. 『早稲田大学百五十年史』第1巻の編集・執筆の件／3. 『早稲田大学百五十年史』第2巻の編集方針の件／4. 編纂資料の取り扱いの件／5. 大学史資料センター分室（編纂室）の活用

・報告事項

1. 予算執行状況の件／2. 資料調査・収集状況の件／3. 法人会議資料目録化・デジタル化状況の件／4. Web版資料集の件／5. 大学関係者聞き取り調査の件／6. 早稲田大学大学史セミナーの件

(二) 各委員会での議論の内容

以下、各委員会での議論を適宜項目に分け、まとめていく。

○編纂日程

編纂方針の見直しに伴い、本編の編纂スケジュールの緻密化とWeb版資料集（データベース）構築スケジュールの具体化をはかり、編纂委員会に提案し承認された。

○編集体制

専門委員の退任および補充について提案があり、編纂委員会において承認された。また、一〇月より新たに第1巻編集担当の非常勤嘱託（二名）が加わったことが報告された。その他、運営体制として、大学史資料センター所長、事務長、助手、助教、常勤嘱託をメンバーとする編纂事務局、また右記のメンバーに各巻担当の非常勤嘱託も加えた編集会議の設置について協議がなされた。

○編集・執筆方針

Vision推進本部の見解に対し、今後の編纂事業の進め方として、①「データベースの構築を重点的に進め、『百五十年史』Web版資料集として公開する。」②「『百五十年史』の全体計画を『百年史』との関係で見直す。」という方針を提案し、編纂委員会において承認を得た。また、『百年史』の達成水準を念頭において編集・執筆を進めるものとし、各巻における『百年史』との関係を整理し、当面の編集・執筆方法等について協議した。

○叙述の内容

第1巻では、編集・執筆の「目標」として、「『百年史』叙述を圧縮・再編成し、体系化・系統化、研究水準の向上、評価の適正化をはかる。」（第1部・第2部）、「『百年史』叙述を抜本的に見直し、体系化・系統化、研究水準の向上、

評価の適正化をはかる」(第3部・第4部)、また「方法」として、「『百年史』の叙述を整理し作業版草稿を作成する。」(第1部・第2部)、「『百年史』の問題点・検討点を抽出する。」(第3部・第4部)ということが協議された。

○資料収集

学内資料については、継続して調査・収集が進められていることが報告された。また、編纂資料の取扱いについては、今後内規等を整備する旨が説明された。これらの点について、法人会議資料の利用に関しては、機密文書取扱い等の問題をはじめ、大学(法人課)側との協議が必要であることが確認された。大学関係者聞き取り調査については、西原春夫元総長に聞き取り調査を実施し、その調査内容を『早稲田大学史記要』や大学史資料センターのWebページにて掲載・公開する旨が報告された。また、今後の計画として、聞き取り候補者等について説明があった。その際、スポーツなどのジャンルも調査対象として検討すべきことや、その具体的な候補者について意見が交わされた。

○Web版資料集

『百年史』の成果を有効活用するためのデータベースと、『百五十年史』独自のデータベースの構築について協議がなされた。前者では、「戦争犠牲者データベース」、「課程表・学科配当表データベース」、「演説・式辞データベース」、「学校設置関係資料データベース」、「統計資料データベース」など、後者では、「早稲田人名データベース」、「創設者関係・年史刊行物データベース」、「早稲田学報」記事データベース、「音声・映像データベース」などを具体的に設定し、作業スケジュールも含め承認を得た。

○情報発信

「早稲田大学大学史セミナー」について具体的な検討がなされ、二月八日に第一回を開催した。講師に西山伸氏(京都大学大学文書館教授)を招き、「大学史編纂のこれまでとこれから」という題目でご講演いただいた。

○その他の事項

二〇一六年二月の理事会において、早稲田大学百五十年史編纂事業方針および二〇一五年度の予算措置について決定がなされた。

二. 二〇一六年度前期の状況

(一) 各委員会・会議の概要

二〇一六年度前期(二〇一六年四月～一〇月)は、編纂委員会が一回、編纂専門委員会が二回、第1巻編集会議が二回行われた。以下、各回の概要(日程、議題等)を開催日順に示す。

○編纂専門委員会(第一回) 六月一四日、一二時一〇分～一三時四〇分、99号館(STEP21) 六階会議室にて開催。
委員の出席者は五名。

・協議事項

1. 2016年度編集体制および編集計画の件／2. 『早稲田大学百五十年史』第1巻の編集・執筆の件／3. 『早稲田大学百五十年史』第2巻の編集方針の件／4. 編纂資料の取扱い内規の件／5. 戦争体験者聞き取り調査の件・報告事項

1. 大学史資料センター分室(編纂室) 利用ルールの件／2. Web版資料集の件／3. 資料調査・収集状況の件
- ／4. 法人会議資料の目録化・デジタル化状況の件／5. 大学関係者聞き取り調査の件／6. 早稲田大学大学史セミナーの件

○編纂委員会（第一回）六月二九日、一二時一〇分～一三時、大隈会館N三〇五会議室にて開催。委員の出席者は四名。

・協議事項

1. 編纂専門委員選出に関する件／2. 2016年度編集体制および編集計画に関する件／3. 『早稲田大学百五十年史』第1巻の編集・執筆に関する件／4. 『早稲田大学百五十年史』第2巻の編集方針に関する件／5. 編纂資料の取扱い内規に関する件／6. 戦争体験者聞き取り調査に関する件

・報告事項

1. 早稲田大学百五十年史編纂委員に関する件／2. 早稲田大学百五十年史編纂専門委員会の報告に関する件／3. 大学史資料センター分室（編纂室）利用ルールに関する件／4. Web版資料集に関する件／5. 資料調査・収集状況に関する件／6. 法人会議資料の目録化・デジタル化状況に関する件／7. 大学関係者聞き取り調査に関する件／8. 早稲田大学大学史セミナーに関する件

○編纂専門委員会（第二回）九月一三日、一〇時～一二時、99号館（STEP21）六階会議室にて開催。委員の出席者は五名。

・協議事項

1. 『早稲田大学百五十年史』編集大綱の件／2. 『早稲田大学百五十年史』執筆要領の件／3. 『早稲田大学百五十年史』第1巻の編集・執筆の件／4. 『早稲田大学百五十年史』第2巻の編集方針の件

・報告事項

1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻編集会議の件／2. Web版資料集の件／3. 資料調査・収集状況の件／4.

法人会議資料の目録化・デジタル化状況の件／5. 大学関係者聞き取り調査の件／6. 戦争体験者聞き取り調査の件／7. 早稲田大学大学史セミナーの件／8. 大学史資料センター分室（編纂室）の件

○第1巻編集会議（第一回）九月一三日、一三時～一五時、99号館（STEP21）六階会議室にて開催。会議メンバーの出席者は七名。

・協議事項

1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻執筆の構想および構成の件（第1部・第2部を中心に）

○第1巻編集会議（第二回）九月二八日、一〇時三〇分～一二時四〇分、99号館（STEP21）六階会議室にて開催。会議メンバーの出席者は八名。

・協議事項

1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻第3部・第4部の構成の件／2. 『早稲田大学百五十年史』第1巻第1部・第2部の構成の件

（二）各委員会・会議での議論の内容

以下、各委員会・会議での議論を適宜項目に分け、まとめていく。

○編集体制

編纂委員の改選があり、新任の委員三名の紹介を含め、確認があった。また、編纂専門委員の選出について提案があり、承認された。編纂メンバーについては、四月より担当助手、助教の交代、五月より常勤嘱託の就任（交代）、六月より第3巻担当の非常勤嘱託が加わったことが報告された。その他、専門委員、編集スタッフ、助手、助教、常

勤嘱託をメンバーとする『早稲田大学百五十年史』第1巻編集会議の設置が提案され、編纂委員会で承認された。

○編集・執筆方針

これまで検討されてきた編集・執筆の基本方針を踏まえ、編集大綱、執筆要領について協議がなされた。特に前者については、引き続き専門委員会等で議論を重ね、今年度第二回の編纂委員会に諮り確定する旨の説明があった。また、第1巻の第1部・第2部の編集・執筆方法については、「目標」を「『百年史』」叙述を抜本的に見直し、体系化・系統化、研究水準の向上、評価の適正化をはかる。」「方法」を「『百年史』」の問題点・検討点を抽出する。」「研究状況の把握・反映につとめる。」「資料の収集・分析をすすめる。」と改定し、承認された。

○叙述の内容

第1巻については、編集・執筆方針の変更を踏まえ、新たな構成案や各章・節・項のタイトル等について、専門委員会や第1巻編集会議において協議を重ねた。第2巻については、『百年史』では十分に取り上げられていない項目の扱い方について、また、「学生」や「スポーツ」など『百五十年史』において重点を置く項目などについて、協議がなされた。

○資料収集

学内資料については、継続して調査・収集が進められていること、学外資料については、文部科学省の所蔵資料に関して調査を開始したことを報告した。また、編纂の過程で収集した借用資料等の利用方法について、「早稲田大学百五十年史編纂事業における借用資料・複写資料の取扱いに関する内規」を提案し、承認を得た。その他、戦争体験者聞き取り調査については、今年度より百五十年史編纂事業の一環として位置づけることを提案し、承認された。その際、「戦争体験者」とは戦地に行っていない人も含むことを確認し、ヒアリング対象者の推薦を促した。大学関係

者聞き取り調査に関しては、非公開聞き取り済の話者に対し公開の交渉を進めることなど、調査方針の変更について説明があった。

○Web版資料集

人名データベース、戦争犠牲者データベース等の作業進捗状況が報告された。また、『百年史』のデジタル化、さらにはデジタルデータのWiki化に関する説明があった。Wiki化については、四月以降情報企画部および開発業者と打ち合わせを重ね、システムの構築を進めた。

○情報発信

「WASEDA ON LINE 文化」や「Waseda Vision 150 Newsletter」において、『早稲田大学百五十年史』編纂の理念と計画」を発信し、『百五十年史』の特色、編纂の目的などをあらためて紹介した。また、六月八日に第二回早稲田大学大学史セミナーを開催した。講師に寺崎昌男氏（東京大学・桜美林大学・立教大学名誉教授）を招き、「大学アイデンティティーの確認とアーカイブズの充実、そして沿革史の編纂」という題目でご講演いただいた。

○その他の事項

大学史資料センター分室（編纂室）について、利用資格等の利用ルールを作成した。その他、編集・執筆作業に伴う授業担当コマ数軽減措置について、来年度の実施は困難な状況であることが確認された。

おわりに

二〇一六年度前期には第3巻を担当する非常勤嘱託一名も加わり、編集体制が固まった。また、編纂室利用のル―

ルや編纂資料取扱いの方法などもほぼ確定し、作業環境もより整いつつある。今後も編纂事業のさらなる推進をはかつていく所存である。